

汐川干潟保全 基本指針

4 自然環境 その1



地質

集水域の地質は、沖積層と洪積層（渥美郡層）に覆われています。小石、砂、シルトなどの沖積層は、固まりにくいいため雨が降ると川へ流れやすく、それらが干潟に溜まると考えられます。

動植物

植物

干潟やその周辺では、これまでに84種類の植物が確認されています。この指針では、干潟を代表する種類として、シバナ・ハママツナなどの塩生植物に、ヨシを加えた12種を塩性湿地植物といます。

この中で、ヨシ群落は最も面積が大きく広く分布し、特に、汐川と切畑川の河口部に発達しています。ヨシ群落の周辺や船だまりでは、シバナやハママツナの小規模な群落が分布し、紙田川河口部ではシオクゲやフクドの群落も見られます。

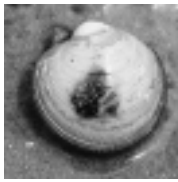
また、堤防の真下には、ハマボウやウラギクが生育しています。ヨシ群落は、窒素を除去しリンを吸収するため、水質をきれいにするのに役立っています。

底生動物

汐川干潟では近年、ゴカイ、貝、カニなど108種類の底生動物の生息が確認されています。そのうちの約半数を貝類が占め、コケゴカイ、オキシジミ、チゴガニなどは、干潟の至る所に生息しています。

逆に、干潟の沖合に生息するオオノガイ、ヨシ群落周辺にのみ見られるフトヘナタリ、アシハラガニなどは、分布している地域が限られています。

なお、これらの底生動物は、堆積した有機物を食べたり、水中の栄養分をろ過したりすることなどにより、干潟の底質や水質の浄化に役立っています。



オキシジミ



フトヘナタリ

環境課 ☎ 23局3541

長野県 宮田村へ

おいでなんしょ

今回は、宮田村のお勧めスポット をご紹介します。

「おいでなんしょ」は、田原市の友好都市である長野県宮田村周辺の方言で「おいでくださいませ」という意味です。

アルプスの恵み 黒川渓谷の伊勢滝と不動滝

標高2956mの中央アルプス駒ヶ岳を源とする黒川渓谷は、初夏の新緑、秋の紅葉と、宮田でもっとも美しい自然を満喫できるポイントの一つです。

駒ヶ岳から流れ出る清らかな水は、伊勢滝、不動滝、濃ヶ池、黒川などの美しい渓谷をつくり出し、伊那峡のある天竜川へと注ぎます。また、水のきれいな黒川渓谷にはイワナやサンショウウオなどの生物が生息しています。

不動滝

黒川渓谷の標高1450mにあり、下に向かって幾重にも広がり、しぶきが虹を映し出し、周りの景観を引き立てます。1年を通して楽しめますが、特に紅葉の時期には燃える山を消し止めるかのような風情が楽しめます。

伊勢滝

駒ヶ岳登山道5合目に位置し、渓谷の上流にあるのが伊勢滝です。標識を目印に15分ほど横道にそれ、岩場を歩くと激しい滝の音が聞こえてきます。真っ逆さまに落ちてくる水は、訪れた人を圧倒させる迫力があります。



標高1900mに位置する伊勢滝

宮田村観光協会 ☎ (0265)85局5864